

学校コード F127310108125

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

認可

注2

四天王寺大学大学院 看護学研究科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人四天王寺学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 IR・戦略統合課

職名・氏名 課長 イマニシ トモノリ
今西 智徳

電話番号 072-956-0062

（夜間） 072-956-3181

e-mail ircenter_n@shitennoji.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学研究科

＜看護学専攻 博士前期課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	26

＜看護学専攻 博士後期課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	29
2. 授業科目の概要	33
3. 施設・設備の整備状況、経費	39
4. 既設大学等の状況	40
5. 教員組織の状況	41
6. 附帯事項等に対する履行状況等	47
7. その他全般的事項	48

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 四天王寺学園

(2) 大学名

四天王寺大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒583-8501
大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タキトウ ソンジュン) 瀧藤 尊淳 (平成25年4月)	(ミナミタニ エケイ) 南谷 恵敬 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
学長	(イワオ ヒロシ) 岩尾 洋 (平成28年4月)	(スハラ ショウジ) 須原 祥二 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
研究科長	(ヤマモト アイコ) 山本 あい子 (令和2年4月)	(タカハシ テルコ) 高橋 照子 (令和3年4月)	任期満了による変更 令和3年4月1日(3)
専攻長	(ニシダ マスミ) 西田 眞壽美 (令和2年4月)	(ウサミ シオリ) 後任なし 宇佐美 しおり (令和4年4月)	令和4年4月1日(4) 任期満了 後任発令なし 令和3年4月1日(3)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
看護学研究科 看護学専攻 （博士前期課程） 修士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	2 年	6 人	— 人	12 人	新規入学者を 募集中	基礎となる学部等： 看護学部看護 学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	/		/		6人	—人	6人	—人	6人	—人	0.94倍	—倍	
					(—)	(—)	(—)	(—)	(—)				
志願者数					5	—	8	—	6	—			
					(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)			
受験者数					5	—	8	—	6	—			
	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)							
合格者数	/		/		3	—	8	—	6	—	0.94倍	—倍	
					(—)	(—)	(—)	(—)	(—)				
B 入学者数					4	—	8	—	5	—			
					(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)			
入学定員超過率 B/A					—	—	0.66	1.33	0.83				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次					4 [-] (-)	— [-] (-)	8 [-] (-)	— [-] (-)	5 [-] (-)	— [-] (-)	
2年次							4 [-] (-)	— [-] (-)	6 [-] (-)	— [-] (-)	
3年次									4 [-] (-)	— [-] (-)	
4年次											
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	4 [-] (-)	[] ()	12 [-] (-)	[] ()	15 [-] (-)	[] ()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	4 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	12 人	2 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	2 人	0 人	除籍(1人)、その他(1人)
令和4年度	15 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		2 人		2 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{12} = \boxed{16.66} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護理論	1前	2			1							
	看護研究 I (総論)	1前	2			2							
	看護研究 II (統計)	1後	2								1		
	看護倫理	1後	2								1		
	国際看護論	1後	2								1		
	哲学的人間論	1前	2								1		
	看護教育論	1前	2								1		
	看護管理論	1前	2								1		
	コンサルテーション論	1前	2			1					1		
	看護政策論	1後	2								1		
	フィジカルアセスメント	1前	2			4					1		
	最新病態生理学	1前	2								1		
	臨床薬理学	1後	2								1		
	小計(13科目)		—	6	20	0	6	0	0	0	0	10	
専門科目	理論看護学特論	1前	2			2	2						
	理論看護学演習 I	1後	2			2	2						
	理論看護学演習 II	2前	2			2	2						
	理論看護学特別研究	1~2通	8			2							
	精神看護学領域	精神障害者制度・法律特論	1前	2			1					1	
		精神科アセスメントと精神科診断学	1前	2			1					2	
		精神療法	1前	2			1					1	
		精神科薬物療法	1後	2			1					2	
		精神看護高度実践看護介入技法	1前	2			1						
		精神障害者ケアマネジメント支援論	1後	2			1					1	
		リエゾン精神看護学	2前	2			1						
		認知症治療看護援助論	1後	2			1						
		役割開発実習	2前	2			1		1				
		精神科診断・治療実習	1後	2			1		1				
		精神看護直接ケア実習	1前	2			1		1				
		精神看護サブスペシャリティ実習	2前	2			1		1				
		相談・調整実習	2後	2			1		1				
		精神看護学課題研究	2通	4			1						
	精神看護学特別研究	1~2通	8			1							
	生涯発達看護学領域	母性看護学特論	1前	2			1	1					
		母性看護学演習 I	1後	2			1	1					
		母性看護学演習 II	2前	2			1	1					
		母性看護学特別研究	1~2通	8			1	1					
小児看護学特論		1前	2			1		1					
小児看護学演習 I	1後	2			1		1						
小児看護学演習 II	2前	2			1		1						
小児看護学特別研究	1~2通	8			1		1						
成人看護学領域	成人看護学特論	1前	2			3	1						
	成人看護学演習 I	1後	2			3		1					
	成人看護学演習 II	2前	2			3	1	1					
	成人看護学特別研究	1~2通	8			3							
老年看護学領域	老年看護学特論 I (老年看護学の基礎)	1前	2			1	1						
	老年看護学特論 II (健康生活評価)	1前	2			1	1						
	老年看護学特論 III (病態・治療)	1前	2			1					1		
	老年看護学特論 IV (看護実践論)	1後	2			1	1						
	老年看護学特論 V (サポートシステム)	2前	2			1	1						
	老年看護学演習 I (慢性期における老年看護)	1後	2			1	1						
	老年看護学演習 II (ケア期における老年看護)	1後	2			1	1						
	老年看護学演習 III (慢性期における高度実践老年看護)	2前	4			1	1						
	老年看護学演習 IV (ケア期における高度実践老年看護)	2通	6			1	1						
	老年看護学課題研究	2通	4			1							
	老年看護学特別研究	1~2通	8			1							

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護理論	1前	2			1							
	看護研究 I (総論)	1前	2			2							
	看護研究 II (統計)	1後	2								1		
	看護倫理	1後	2								1		
	国際看護論	1後	2								1		
	哲学的人間論	1前	2								1		
	看護教育論	1前	2								1		
	看護管理論	1前	2					1					
	コンサルテーション論	1前	2			1					1		
	看護政策論	1後	2					1					
	フィジカルアセスメント	1前	2			4							
	最新病態生理学	1前	2								1		
	臨床薬理学	1後	2								1		
	小計(13科目)		—	6	20	0	7	0	0	0	0	8	
専門科目	理論看護学特論	1前	2			1	1						
	理論看護学演習 I	1後	2			1	1						
	理論看護学演習 II (未開講)	2前	2			1	1						
	理論看護学特別研究	1~2通	8			1							
	精神看護学領域	精神障害者制度・法律特論	1前	2			1					1	
		精神科アセスメントと精神科診断学	1前	2			1					2	
		精神療法	1前	2			1					1	
		精神科薬物療法	1後	2			1					2	
		精神看護高度実践看護介入技法	1前	2			1						
		精神障害者ケアマネジメント支援論	1後	2			1					1	
		リエゾン精神看護学	2前	2			1						
		認知症治療看護援助論	1後	2			1						
		役割開発実習	2前	2			1		1				
		精神科診断・治療実習	1後	2			1		1				
		精神看護直接ケア実習	1前	2			1		1				
		精神看護サブスペシャリティ実習	2前	2			1		1				
		相談・調整実習	2後	2			1		1				
		精神看護学課題研究	2通	4			1						
	精神看護学特別研究	1~2通	8			1							
	生涯発達看護学領域	母性看護学特論 (未開講)	1前	2			1	1					
		母性看護学演習 I (未開講)	1後	2			1	1					
		母性看護学演習 II (未開講)	2前	2			1	1					
		母性看護学特別研究	1~2通	8			1	1					
小児看護学特論 (未開講)		1前	2			1		1					
小児看護学演習 I (未開講)	1後	2			1		1						
小児看護学演習 II (未開講)	2前	2			1		1						
小児看護学特別研究 (未開講)	1~2通	8			1		1						
成人看護学領域	成人看護学特論	1前	2			3	1						
	成人看護学演習 I	1後	2			3		1					
	成人看護学演習 II	2前	2			3	1	1					
	成人看護学特別研究	1~2通	8			3							
老年看護学領域	老年看護学特論 I (老年看護学の基礎)	1前	2			1	1						
	老年看護学特論 II (健康生活評価) (未開講)	1前	2			1	1						
	老年看護学特論 III (病態・治療)	1前	2			1					1		
	老年看護学特論 IV (看護実践論) (未開講)	1後	2			1	1						
	老年看護学特論 V (サポートシステム)	2前	2			1	1						
	老年看護学演習 I (慢性期における老年看護) (未開講)	1後	2			1	1						
	老年看護学演習 II (ケア期における老年看護) (未開講)	1後	2			1	1						
	老年看護学演習 III (慢性期における高度実践老年看護) (未開講)	2前	4			1	1						
	老年看護学演習 IV (ケア期における高度実践老年看護) (未開講)	2通	6			1	1						
	老年看護学課題研究	2通	4			1							
	老年看護学特別研究	1~2通	8			1							

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論	1前	2		2	1					
		公衆衛生看護学演習Ⅰ	1後	2		2	1					
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	2前	2		2	1					
		公衆衛生看護学特別研究	1～2通	8		2	1					
	在宅看護学領域	在宅看護学特論	1前	2		2						
		在宅看護学演習Ⅰ	1後	2		2						
		在宅看護学演習Ⅱ	2前	2		2						
		在宅看護学特別研究	1～2通	8		2						
	災害看護学領域	災害看護対象論	1前	2		1	1					
		災害看護ケア論	1前	2		1	1					
		災害と制度	1前	2		1	1					
		災害看護援助論	1後	2		1	1					
		防災・減災看護論演習	2前	2		1	1					
		要援護者看護援助論	2前	2		1	1					
		災害看護連携論	2前	2		1	1					
		災害看護学実習Ⅰ	1後	3		1	1					
		災害看護学実習Ⅱ	2前	2		1	1					
		災害看護学実習Ⅲ	2前	3		1	1					
		災害看護学実習Ⅳ	2後	2		1	1					
		災害看護学課題研究	2通	4		1						
	災害看護学特別研究	1～2通	8		1							
	小計(63科目)		—	0	194	0	14	7	3	0	0	5
	合計(76科目)		—	6	214	0	14	7	3	0	0	14

卒業要件及び履修方法

《研究者コース》

共通科目から必修6単位を含み14単位以上、専門科目から9つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を含み14単位以上及び他の領域から2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

《専門看護師コース(精神看護学・老年看護学・災害看護学)》

共通科目から14単位以上(必修6単位を含み専門看護師コース必修科目のフィジカルアセスメント、最新病態生理学、臨床薬理学の6単位、及び看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論から2単位以上選択)修得するとともに、専門科目から専門看護師コースが設置されている3つの領域(精神看護学・老年看護学・災害看護学)のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の中から「課題研究」を含み28単位以上の合計42単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論	1前	2		2						
		公衆衛生看護学演習Ⅰ	1後	2		2						
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	2前	2		2						
		公衆衛生看護学特別研究	1～2通	8		2						
	在宅看護学領域	在宅看護学特論	1前	2		2						
		在宅看護学演習Ⅰ	1後	2		2						
		在宅看護学演習Ⅱ	2前	2		2						
		在宅看護学特別研究	1～2通	8		2						
	災害看護学領域	災害看護対象論	1前	2				1				
		災害看護ケア論	1前	2				1				
		災害と制度	1前	2				1				
		災害看護援助論	1後	2				1				
		防災・減災看護論演習	2前	2				1				
		要援護者看護援助論	2前	2				1				
		災害看護連携論	2前	2				1				
		災害看護学実習Ⅰ	1後	3				1				
		災害看護学実習Ⅱ	2前	2				1				
		災害看護学実習Ⅲ	2前	3				1				
		災害看護学実習Ⅳ	2後	2				1				
		災害看護学課題研究	2通	4					1			
	災害看護学特別研究	1～2通	8					1				
	小計(63科目)		—	0	194	0	14	5	2	0	0	5
	合計(76科目)		—	6	214	0	14	5	2	0	0	14

卒業要件及び履修方法

《研究者コース》

共通科目から必修6単位を含み14単位以上、専門科目から9つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を含み14単位以上及び他の領域から2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

《専門看護師コース(精神看護学・老年看護学・災害看護学)》

共通科目から14単位以上(必修6単位を含み専門看護師コース必修科目のフィジカルアセスメント、最新病態生理学、臨床薬理学の6単位、及び看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論から2単位以上選択)修得するとともに、専門科目から専門看護師コースが設置されている3つの領域(精神看護学・老年看護学・災害看護学)のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の中から「課題研究」を含み28単位以上の合計42単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護理論	1前	2			1						
	看護研究Ⅰ(総論)	1前	2			2						
	看護研究Ⅱ(統計)	1後		2							1	
	看護倫理	1後	2								1	
	国際看護論	1後		2							1	
	哲学的人間論	1前		2							1	
	看護教育論	1前		2							1	
	看護管理論	1前		2							1	
	コンサルテーション論	1前		2		1					1	
	看護政策論	1後		2							1	
	フィジカルアセスメント	1前		2		4						
	最新病態生理学	1前		2							1	
	臨床薬理学(未開講)	1後		2							1	
小計(13科目)		-	6	20	0	6	0	0	0	0	10	
専門科目	基礎看護学分野	理論看護学特論	1前	2		2	2					
		理論看護学演習Ⅰ(未開講)	1後	2		2	2					
		理論看護学演習Ⅱ	2前	2		2	2					
		理論看護学特別研究(未開講)	1~2選	8		2						
		精神障害者制度・法律特論	1前	2		1						1
		精神科アセスメントと精神科診断学	1前	2		1						2
		精神療法	1前	2		1						1
		精神科薬物療法	1後	2		1						2
		精神看護高度実践看護介入技法	1前	2		1						1
		精神障害者ケースマネジメント支援論	1後	2		1						1
		リエゾン精神看護学	2前	2		1						
		認知症治療看護援助論(未開講)	1後	2		1						
		役割開発実習	2前	2		1		1				
	精神科診断・治療実習	1後	2		1		1					
	精神看護直接ケア実習(未開講)	1前	2		1		1					
	精神看護サブスペシャリティ実習	2前	2		1		1					
	相談・調整実習	2後	2		1		1					
	精神看護学課題研究	2通	4		1							
	精神看護学特別研究	1~2選	8		1							
	生涯発達看護学分野	母性看護学特論(未開講)	1前	2		1	1					
		母性看護学演習Ⅰ(未開講)	1後	2		1	1					
母性看護学演習Ⅱ		2前	2		1	1						
母性看護学特別研究(未開講)		1~2選	8		1	1						
小児看護学特論(未開講)		1前	2		1	1						
小児看護学演習Ⅰ(未開講)		1後	2		1	1						
小児看護学演習Ⅱ		2前	2		1	1						
小児看護学特別研究(未開講)		1~2選	8		1	1						
成人看護学特論		1前	2		3	1						
成人看護学演習Ⅰ		1後	2		3	1						
成人看護学演習Ⅱ		2前	2		3	1	1					
成人看護学特別研究		1~2選	8		3							
老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基礎)		1前	2		1	1						
老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)(未開講)		1前	2		1	1						
老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)(未開講)		1前	2		1						1	
老年看護学特論Ⅳ(看護実践論)(未開講)		1後	2		1	1						
老年看護学特論Ⅴ(サブトピック)(未開講)		2前	2		1	1						
老年看護学演習Ⅰ(福祉観における老年看護)(未開講)		1後	2		1	1						
老年看護学演習Ⅱ(ケア観における老年看護)(未開講)	1後	2		1	1							
老年看護学演習Ⅲ(福祉観における高齢者看護)(未開講)	2前	4		1	1							
老年看護学演習Ⅳ(ケア観における高齢者看護)(未開講)	2通	6		1	1							
老年看護学課題研究	2通	4		1								
老年看護学特別研究(未開講)	1~2選	8		1								

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護理論	1前	2			1						
	看護研究Ⅰ(総論)	1前	2			2						
	看護研究Ⅱ(統計)(未開講)	1後		2							1	
	看護倫理(未開講)	1後	2								1	
	国際看護論(未開講)	1後		2							1	
	哲学的人間論(未開講)	1前		2							1	
	看護教育論	1前		2							1	
	看護管理論	1前		2							1	
	コンサルテーション論	1前		2		1					1	
	看護政策論(未開講)	1後		2							1	
	フィジカルアセスメント	1前		2		4						
	最新病態生理学	1前		2							1	
	臨床薬理学(未開講)	1後		2							1	
小計(13科目)		-	6	20	0	6	0	0	0	0	10	
専門科目	基礎看護学分野	理論看護学特論(未開講)	1前	2		1	2					
		理論看護学演習Ⅰ(未開講)	1後	2		1	2					
		理論看護学演習Ⅱ(未開講)	2前	2		1	2					
		理論看護学特別研究(未開講)	1~2選	8		1						
		精神障害者制度・法律特論	1前	2		1						1
		精神科アセスメントと精神科診断学	1前	2		1						2
		精神療法(未開講)	1前	2		1						1
		精神科薬物療法(未開講)	1後	2		1						2
		精神看護高度実践看護介入技法	1前	2		1						1
		精神障害者ケースマネジメント支援論	1後	2		1						1
		リエゾン精神看護学	2前	2		1						
		認知症治療看護援助論(未開講)	1後	2		1						
		役割開発実習(未開講)	2前	2		1		1				
	精神科診断・治療実習(未開講)	1後	2		1		1					
	精神看護直接ケア実習	1前	2		1		1					
	精神看護サブスペシャリティ実習	2前	2		1		1					
	相談・調整実習	2後	2		1		1					
	精神看護学課題研究	2通	4		1							
	精神看護学特別研究	1~2選	8		1							
	生涯発達看護学分野	母性看護学特論	1前	2		1	1					
		母性看護学演習Ⅰ(未開講)	1後	2		1	1					
母性看護学演習Ⅱ(未開講)		2前	2		1	1						
母性看護学特別研究		1~2選	8		1	1						
小児看護学特論(未開講)		1前	2		1	1						
小児看護学演習Ⅰ(未開講)		1後	2		1	1						
小児看護学演習Ⅱ(未開講)		2前	2		1	1						
小児看護学特別研究(未開講)		1~2選	8		1	1						
成人看護学特論		1前	2		3	1						
成人看護学演習Ⅰ(未開講)		1後	2		3	1						
成人看護学演習Ⅱ		2前	2		3	1	1					
成人看護学特別研究		1~2選	8		3							
老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基礎)		1前	2		1	1						
老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)(未開講)		1前	2		1	1						
老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)(未開講)		1前	2		1						1	
老年看護学特論Ⅳ(看護実践論)(未開講)		1後	2		1	1						
老年看護学特論Ⅴ(サブトピック)(未開講)		2前	2		1	1						
老年看護学演習Ⅰ(福祉観における老年看護)(未開講)		1後	2		1	1						
老年看護学演習Ⅱ(ケア観における老年看護)(未開講)	1後	2		1	1							
老年看護学演習Ⅲ(福祉観における高齢者看護)(未開講)	2前	4		1	1							
老年看護学演習Ⅳ(ケア観における高齢者看護)(未開講)	2通	6		1	1							
老年看護学課題研究(未開講)	2通	4		1								
老年看護学特別研究	1~2選	8		1								

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論(未開講)	1前	2		2	1					
		公衆衛生看護学演習Ⅰ(未開講)	1後	2		2	1					
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	2前	2		2	1					
		公衆衛生看護学特別研究(未開講)	1~2通	8		2	1					
	在宅看護学領域	在宅看護学特論	1前	2		3						
		在宅看護学演習Ⅰ	1後	2		3						
		在宅看護学演習Ⅱ	2前	2		3						
		在宅看護学特別研究	1~2通	8		3						
	災害看護学領域	災害看護対象論	1前	2		1	1					
		災害看護ケア論(未開講)	1前	2		1	1					
		災害と制度(未開講)	1前	2		1	1					
		災害看護援助論(未開講)	1後	2		1	1					
		防災・減災看護論演習	2前	2		1	1					
		要介護者看護援助論	2前	2		1	1					
		災害看護連携論	2前	2		1	1					
		災害看護学実習Ⅰ(未開講)	1後	3		1	1					
		災害看護学実習Ⅱ	2前	2		1	1					
		災害看護学実習Ⅲ	2前	3		1	1					
		災害看護学実習Ⅳ	2後	2		1	1					
		災害看護学課題研究	2通	4		1						
	災害看護学特別研究(未開講)	1~2通	8		1							
	小計(63科目)		—	0	194	0	15	7	3	0	0	5
	合計(76科目)		—	6	214	0	15	7	3	0	0	14

卒業要件及び履修方法

《研究者コース》
 共通科目から必修6単位を含み14単位以上、専門科目から9つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を含み14単位以上及び他の領域から2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

《専門看護師コース(精神看護学・老年看護学・災害看護学)》
 共通科目から14単位以上(必修6単位を含み専門看護師コース必修科目のフィジカルアセスメント、最新病態生理学、臨床薬理学の6単位、及び看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論から2単位以上選択)修得するとともに、専門科目から専門看護師コースが設置されている3つの領域(精神看護学・老年看護学・災害看護学)のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の中から「課題研究」を含み28単位以上の合計42単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論(未開講)	1前	2		2						
		公衆衛生看護学演習Ⅰ(未開講)	1後	2		2						
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	2前	2		2						
		公衆衛生看護学特別研究(未開講)	1~2通	8		2						
	在宅看護学領域	在宅看護学特論	1前	2		3						
		在宅看護学演習Ⅰ	1後	2		3						
		在宅看護学演習Ⅱ	2前	2		3						
		在宅看護学特別研究	1~2通	8		3						
	災害看護学領域	災害看護対象論	1前	2		1	1					
		災害看護ケア論(未開講)	1前	2		1	1					
		災害と制度(未開講)	1前	2		1	1					
		災害看護援助論(未開講)	1後	2		1	1					
		防災・減災看護論演習	2前	2		1	1					
		要介護者看護援助論	2前	2		1	1					
		災害看護連携論	2前	2		1	1					
		災害看護学実習Ⅰ(未開講)	1後	3		1	1					
		災害看護学実習Ⅱ	2前	2		1	1					
		災害看護学実習Ⅲ	2前	3		1	1					
		災害看護学実習Ⅳ	2後	2		1	1					
		災害看護学課題研究	2通	4		1						
	災害看護学特別研究(未開講)	1~2通	8		1							
	小計(63科目)		—	0	194	0	14	6	3	0	0	5
	合計(76科目)		—	6	214	0	14	6	3	0	0	14

卒業要件及び履修方法

《研究者コース》
 共通科目から必修6単位を含み14単位以上、専門科目から9つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を含み14単位以上及び他の領域から2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

《専門看護師コース(精神看護学・老年看護学・災害看護学)》
 共通科目から14単位以上(必修6単位を含み専門看護師コース必修科目のフィジカルアセスメント、最新病態生理学、臨床薬理学の6単位、及び看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論から2単位以上選択)修得するとともに、専門科目から専門看護師コースが設置されている3つの領域(精神看護学・老年看護学・災害看護学)のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の中から「課題研究」を含み28単位以上の合計42単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・オムニバス担当の見直しにより、「フィジカルアセスメント」の教員数を変更（兼任教授1名削除）
- ・教育内容の充実のため、「在宅看護学特論」の専任教員数を「教授2」から「教授3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「在宅看護学演習Ⅰ」の専任教員数を「教授2」から「教授3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「在宅看護学演習Ⅱ」の専任教員数を「教授2」から「教授3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「在宅看護学特別研究」の専任教員数を「教授2」から「教授3」に変更

【令和3年度】

- ・担当者退職のため、「理論看護学特論」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「理論看護学演習Ⅰ」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「理論看護学演習Ⅱ」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「理論看護学特別研究」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「公衆衛生看護学特論」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「公衆衛生看護学演習Ⅰ」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「公衆衛生看護学演習Ⅱ」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「公衆衛生看護学特別研究」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更

【令和4年度】

- ・教育内容の充実のため、「看護政策論」の専任教員数を「兼任教授1」から「教授1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「看護管理論」の専任教員数を「兼任講師1」から「教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「理論看護学特論」「理論看護学演習Ⅰ」「理論看護学演習Ⅱ」の専任教員数を「教授1、准教授2」から「教授1、准教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「成人看護学演習Ⅰ」の専任教員数を「教授3、講師1」から「教授3」に変更
- ・担当者退職のため、「成人看護学演習Ⅱ」の専任教員数を「教授3、准教授1、講師1」から「教授3、准教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「災害看護対象論」「災害看護ケア論」「災害と制度」「災害看護援助論」「防災・減災看護論演習」「要援護者看護援助論」「災害看護連携論」「災害看護学実習Ⅰ」「災害看護学実習Ⅱ」「災害看護学実習Ⅲ」「災害看護学実習Ⅳ」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「災害看護学課題研究」「災害看護学特別研究」の専任教員数を「教授1」から「准教授1」に変更

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	73 科目	0 科目	76 科目	3 科目 []	73 科目 []	0 科目 []	76 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{76} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考		
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	0 m ²	105,874.22 m ² 100,141.98 m²	0 m ²	105,874.22 m ² 100,141.98 m²	四天王寺大学短期大学部(必要面積4,800m ²)と共用		
	運動場用地	0 m ²	67,012.64 m ² 30,611.60 m²	0 m ²	67,012.64 m ² 30,611.60 m²			
	小計	0 m ²	172,886.86 m ² 130,752.68 m²	0 m ²	172,886.86 m ² 130,752.68 m²	元年度、移管された校地の改修工事が2年7月に完成。これに伴い、土地の用途を変更(3)		
	その他	0 m ²	59,355.14 m ² 104,489.32 m² 67,824.32 m²	0 m ²	59,355.14 m ² 104,489.32 m² 67,824.32 m²			
	合計	0 m ²	232,242.00 m ² 189,577.00 m²	0 m ²	232,242.00 m ² 189,577.00 m²			
(2) 校舎	専用	4,206.37 m ²	59,161.45 m ² 59,150.48 m² 59,063.05 m² 69,066.66 m²	938.44 m ² 949.41 m² 1,036.84 m² 1,044.34 m²	64,306.26 m ²	四天王寺大学短期大学部(必要面積5,200m ²)と共用 【共用】および【共用する他の学校等の専用】併設短期大学部専用研究室の増による変更(2) 【共用】および【共用する他の学校等の専用】併設短期大学部専用研究室の減による変更(3) 【共用】および【共用する他の学校等の専用】併設短期大学部専用研究室の減による変更(4)		
	共用							
(3) 教室等	講義室	68室	演習室 69室 64室	実験実習室 31室	情報処理学習施設 1室	語学学習施設 0室	大学全体 教室使用の用途変更のため(3)	
	専任教員研究室	新設学部等の名称 看護学研究科 看護学専攻			室数 25 24 室	専任教員1名採用による変更(2)		
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共有分 図書 342,870冊 336,062冊 326,341冊 299,801冊 [40,537冊] [41,341冊] [41,243冊] [39,556冊] 学術雑誌 4,707種 4,647種 4,615種 4,224種 [430種] [431種] [427種] [384種]
	看護学研究科 看護学専攻	5,017 [340] 4,841 [328] (4,480 [328]) (4,326 [325]) (3,843 [300])	464 [425] 617 [597] (625 [603]) (464 [425])	426 [409] 605 [586] (611 [592]) (426 [409])	233 (203) (192) (178) (158)	3,873 (3,840)	33 (33)	
	計	5,017 [340] 4,841 [328] (4,480 [328]) (4,326 [325]) (3,843 [300])	464 [425] 617 [597] (625 [603]) (464 [425])	426 [409] 605 [586] (611 [592]) (426 [409])	233 (203) (192) (178) (158)	3,873 (3,840)	33 (33)	購入による変更(2) 購入による変更(3) 購入、休刊等による変更(4)
	計	5,017 [340] 4,841 [328] (4,480 [328]) (4,326 [325]) (3,843 [300])	464 [425] 617 [597] (625 [603]) (464 [425])	426 [409] 605 [586] (611 [592]) (426 [409])	233 (203) (192) (178) (158)	3,873 (3,840)	33 (33)	
(6) 図書館	面積	4,246.44 m ²		閲覧座席数 520 579	収納可能冊数 371,699 294,000	大学全体 閲覧スペースのレイアウト変更の為(3)		
	面積	11,008.20 m ² 7,530.96 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート 7 -4- 面、武道場		大学全体 学園内の高等学校廃止により、既存施設の移管による変更(2)		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	
	教員1人当り研究費等	370千円	370千円	図書購入費	3,500千円	2,000千円	—千円	【設備購入費】 計画時の購入予定台数から変更となったため(2)
	共同研究費等	2,000千円	3,000千円 2,000千円	設備購入費	3,960千円 7,810千円	900千円	—千円	【共同研究費】 研究支援のために増額(4)
	学生1人当り納付金	第1年次 800千円	第2年次 600千円	第3年次 —千円	第4年次 —千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		各年度の手数料収入、雑収入等をこれに充当する。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA○対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	四天王寺大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人 3年次	人		倍	倍	年度	年度		
人文社会学部											
日本学科	4	100	3	406	学士(人文社会学)	1.04	0.99		平成24		
国際キャリア学科	4	90	5	370	学士(人文社会学)	0.97	0.61		平成24		
社会学科	4	160	5	650	学士(人文社会学)	1.12	1.13		昭和61		
人間福祉学科	4	70	15	310	学士(人文社会学)	1.06	0.98		平成18		
教育学部			3年次								
教育学科	4	240	17	994	学士(教育学)	1.10	1.14		平成20		
経営学部			3年次								
経営学科									平成20	大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1	
公共経営専攻	4	40	2	164	学士(経営学)	0.97	1.02		平成28		
企業経営専攻	4	120	3	486	学士(経営学)	1.13	1.05		平成28		
看護学部											
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.07	1.13		平成31		
大学全体	—	900	50	3700	—	—	—	—	—		

大学の名称	四天王寺大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
人文社会学研究科 人間福祉学専攻											
博士前期課程	2	10	—	20	修士(人間福祉学)	0.00	0.00		平成15		
博士後期課程	3	3	—	9	博士(人間福祉学)	0.66	0.00		平成15		
看護学研究科 看護学専攻											
博士前期課程	2	6	—	12	修士(看護学)	1.08	0.83		令和2	大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1	
博士後期課程	3	3	—	9	博士(看護学)	0.88	0.66		令和2		
大学院全体	—	22	—	50	—	—	—	—	—		

大学の名称	四天王寺大学短期大学部						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
保育科	2	120	—	240	短期大学士(保育)	0.66	0.65		昭和42		
ライフデザイン学科	2	100	—	200	短期大学士(ライフデザイン)	0.88	0.82			大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1	
ライフケア専攻	2	0	—	20	短期大学士(ライフケア)	0.80	—		平成13		
短期大学部全体	—	220	—	460	—	—	—	—	—		令和4年度より生活ナビゲーション学科からライフデザイン学科に名称変更。令和3年度入学生については、生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻として入学。令和4年度より学生募集停止。令和3年度入学生については、ライフナビゲーション学科 ライフケア専攻として入学。

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和2年度】			【令和3年度】			【令和4年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授(研究科長)	山本 あい子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy (米国)	専	教授(研究科長)	山本 あい子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy (米国)	専	教授	山本 あい子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy (米国)	専	教授	山本 あい子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy (米国)
		災害看護対象論 災害看護ケア論 災害と制度 災害看護援助論 防災・減災看護論演習 要援護者看護援助論 災害看護連携論 災害看護学実習Ⅰ 災害看護学実習Ⅱ 災害看護学実習Ⅲ 災害看護学実習Ⅳ 災害看護学課題研究 災害看護学特別研究			災害看護対象論 災害看護ケア論 災害と制度 災害看護援助論 防災・減災看護論演習 要援護者看護援助論 災害看護連携論 災害看護学実習Ⅰ 災害看護学実習Ⅱ 災害看護学実習Ⅲ 災害看護学実習Ⅳ 災害看護学課題研究 災害看護学特別研究			災害看護対象論 災害看護ケア論 災害と制度 災害看護援助論 防災・減災看護論演習 要援護者看護援助論 災害看護連携論 災害看護学実習Ⅰ 災害看護学実習Ⅱ 災害看護学実習Ⅲ 災害看護学実習Ⅳ 災害看護学課題研究 災害看護学特別研究			災害看護対象論 災害看護ケア論 災害と制度 災害看護援助論 防災・減災看護論演習 要援護者看護援助論 災害看護連携論 災害看護学実習Ⅰ 災害看護学実習Ⅱ 災害看護学実習Ⅲ 災害看護学実習Ⅳ 災害看護学課題研究 災害看護学特別研究
専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)
		フィジカルアセスメント 母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 助産実習 母性看護学特別研究			フィジカルアセスメント 母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 助産実習 母性看護学特別研究			フィジカルアセスメント 母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 助産実習 母性看護学特別研究			フィジカルアセスメント 母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 助産実習 母性看護学特別研究
専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)
		コンサルテーション論 精神障害者制度・法律特論 精神科アセスメントと精神科診断学 精神療法 精神科薬物療法 精神看護高度実践看護介入技法 精神障害者ケースマネジメント支援論 リエゾン精神看護学 認知症治療看護援助論 役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習 精神看護学課題研究 精神看護学特別研究			コンサルテーション論 精神障害者制度・法律特論 精神科アセスメントと精神科診断学 精神療法 精神科薬物療法 精神看護高度実践看護介入技法 精神障害者ケースマネジメント支援論 リエゾン精神看護学 認知症治療看護援助論 役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習 精神看護学課題研究 精神看護学特別研究			コンサルテーション論 精神障害者制度・法律特論 精神科アセスメントと精神科診断学 精神療法 精神科薬物療法 精神看護高度実践看護介入技法 精神障害者ケースマネジメント支援論 リエゾン精神看護学 認知症治療看護援助論 役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習 精神看護学課題研究 精神看護学特別研究			コンサルテーション論 精神障害者制度・法律特論 精神科アセスメントと精神科診断学 精神療法 精神科薬物療法 精神看護高度実践看護介入技法 精神障害者ケースマネジメント支援論 リエゾン精神看護学 認知症治療看護援助論 役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習 精神看護学課題研究 精神看護学特別研究
専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)
		在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究			在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究			在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究			在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究
専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)
		公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学特別研究			公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学特別研究			公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学特別研究			公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学特別研究
専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)
		在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究			在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究			在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究			在宅看護学特論 在宅看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅱ 在宅看護学特別研究
専	教授	鈴木 真知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	鈴木 真知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	鈴木 真知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	専	教授	鈴木 真知子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		フィジカルアセスメント 小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究			フィジカルアセスメント 小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究			フィジカルアセスメント 小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究			フィジカルアセスメント 小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究
専	教授	高橋(田代) 照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing (米国)	専	教授	高橋(田代) 照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing (米国)	専	教授(研究科長)	高橋(田代) 照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing (米国)	専	教授(研究科長)	高橋(田代) 照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing (米国)
		看護理論 看護研究Ⅰ(総論) 理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ 理論看護学特別研究			看護理論 看護研究Ⅰ(総論) 理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ 理論看護学特別研究			看護理論 看護研究Ⅰ(総論) 理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ 理論看護学特別研究			看護理論 看護研究Ⅰ(総論) 理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ 理論看護学特別研究

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	小出 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学特別研究
専	准教授	坂口 京子 <令和2年4月> 博士(看護学)	理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)	老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基礎) 老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価) 老年看護学特論Ⅲ(看護実践論) 老年看護学特論Ⅳ(サポートシステム) 老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ(慢性期における老年看護) 老年看護学演習Ⅲ(ケア施設における老年看護) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ(慢性期における高度実践老年看護) 老年看護学実習Ⅲ(ケア施設における高度実践老年看護)
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 母性看護学特別研究
専	准教授	吉川 有葵 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	成人看護学特論 成人看護学演習Ⅱ
専	講師	川田 陽子 <令和2年4月> 修士(看護学)	役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習
専	講師	面元 康世 <令和2年4月> 博士(保健学)	小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究
専	講師	松田 常美 <令和2年4月> 修士(医科学)	成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
兼任	教授	仲谷 和記 <令和2年4月> 博士(医学)	フィジカルアセスメント 最新病態生理学 老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)
兼任	准教授	平井 秀幸 <令和2年9月> 博士(教育学)	看護研究Ⅱ(統計)
兼任	講師	大磯 宏昭 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	小出 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学特別研究
専	准教授	坂口 京子 <令和2年4月> 博士(看護学)	理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)	老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基礎) 老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価) 老年看護学特論Ⅲ(看護実践論) 老年看護学特論Ⅳ(サポートシステム) 老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ(慢性期における老年看護) 老年看護学演習Ⅲ(ケア施設における老年看護) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ(慢性期における高度実践老年看護) 老年看護学実習Ⅲ(ケア施設における高度実践老年看護)
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 母性看護学特別研究
専	准教授	吉川 有葵 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	成人看護学特論 成人看護学演習Ⅱ
専	講師	川田 陽子 <令和2年4月> 修士(看護学)	役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習
専	講師	面元 康世 <令和2年4月> 博士(保健学)	小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究
専	講師	松田 常美 <令和2年4月> 博士(医学)	成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
兼任	教授	仲谷 和記 <令和2年4月> 博士(医学)	最新病態生理学 老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)
兼任	准教授	平井 秀幸 <令和2年9月> 博士(教育学)	看護研究Ⅱ(統計)
兼任	講師	大磯 宏昭 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	坂口 京子 <令和2年4月> 博士(看護学)	理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)	老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基礎) 老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価) 老年看護学特論Ⅲ(看護実践論) 老年看護学特論Ⅳ(サポートシステム) 老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ(慢性期における老年看護) 老年看護学演習Ⅲ(ケア施設における老年看護) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ(慢性期における高度実践老年看護) 老年看護学実習Ⅲ(ケア施設における高度実践老年看護)
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 母性看護学特別研究
専	准教授	吉川 有葵 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	成人看護学特論 成人看護学演習Ⅱ
専	講師	川田 陽子 <令和2年4月> 修士(看護学)	役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習
専	講師	面元 康世 <令和2年4月> 博士(保健学)	小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究
専	講師	松田 常美 <令和2年4月> 博士(医学)	成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
兼任	教授	仲谷 和記 <令和2年4月> 博士(医学)	最新病態生理学 老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)
兼任	准教授	平井 秀幸 <令和2年9月> 博士(教育学)	看護研究Ⅱ(統計)
兼任	講師	大磯 宏昭 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	坂口 京子 <令和2年4月> 博士(看護学)	理論看護学特論 理論看護学演習Ⅰ 理論看護学演習Ⅱ
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)	老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基礎) 老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価) 老年看護学特論Ⅲ(看護実践論) 老年看護学特論Ⅳ(サポートシステム) 老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ(慢性期における老年看護) 老年看護学演習Ⅲ(ケア施設における老年看護) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ(慢性期における高度実践老年看護) 老年看護学実習Ⅲ(ケア施設における高度実践老年看護)
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母性看護学特論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 母性看護学特別研究
専	准教授	吉川 有葵 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	成人看護学特論 成人看護学演習Ⅱ
専	講師	川田 陽子 <令和2年4月> 修士(看護学)	役割開発実習 精神科診断・治療実習 精神看護直接ケア実習 精神看護サブスペシャリティ実習 相談・調整実習
専	講師	面元 康世 <令和2年4月> 博士(保健学)	小児看護学特論 小児看護学演習Ⅰ 小児看護学演習Ⅱ 小児看護学特別研究
兼任	講師	高木 廣文 <令和4年9月> 健康学博士	看護研究Ⅱ(統計)
兼任	講師	大磯 宏昭 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	岡谷 恵子 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護政策論
兼任	講師	倉知 延章 <令和2年4月> 修士(保健医療学)	精神障害者制度・法律特論 精神障害者ケースマネジメント支援論
兼任	講師	小谷 英文 <令和2年4月> 博士(心理学)	精神療法
兼任	講師	近藤 麻理 <令和2年9月> 博士(看護学)	国際看護論
兼任	講師	高田 早苗 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護倫理
兼任	講師	高橋 教朗 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法
兼任	講師	鶴田 恵子 <令和2年4月> 看護学修士	看護管理論
兼任	講師	丸橋 裕 <令和2年4月> 博士(文学)	哲学的人間論
兼任	講師	三浦 克之 <令和2年4月> 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学)	看護教育論
兼任	講師	山岡 由実 <令和2年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	岡谷 恵子 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護政策論
兼任	講師	倉知 延章 <令和2年4月> 修士(保健医療学)	精神障害者制度・法律特論 精神障害者ケースマネジメント支援論
兼任	講師	小谷 英文 <令和2年4月> 博士(心理学)	精神療法
兼任	講師	近藤 麻理 <令和2年9月> 博士(看護学)	国際看護論
兼任	講師	高田 早苗 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護倫理
兼任	講師	高橋 教朗 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法
兼任	講師	鶴田 恵子 <令和2年4月> 看護学修士	看護管理論
兼任	講師	丸橋 裕 <令和2年4月> 博士(文学)	哲学的人間論
兼任	教授	岩尾 洋 <令和2年4月> 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学)	看護教育論
兼任	講師	山岡 由実 <令和2年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	岡谷 恵子 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護政策論
兼任	講師	倉知 延章 <令和2年4月> 修士(保健医療学)	精神障害者制度・法律特論 精神障害者ケースマネジメント支援論
兼任	講師	小谷 英文 <令和2年4月> 博士(心理学)	精神療法
兼任	講師	近藤 麻理 <令和2年9月> 博士(看護学)	国際看護論
兼任	講師	高田 早苗 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護倫理
兼任	講師	高橋 教朗 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法
兼任	講師	鶴田 恵子 <令和2年4月> 看護学修士	看護管理論
兼任	講師	丸橋 裕 <令和2年4月> 博士(文学)	哲学的人間論
兼任	教授	岩尾 洋 <令和2年4月> 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学)	看護教育論
兼任	講師	山岡 由実 <令和2年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	岡谷 恵子 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護政策論 看護管理論
兼任	講師	倉知 延章 <令和2年4月> 修士(保健医療学)	精神障害者制度・法律特論 精神障害者ケースマネジメント支援論
兼任	講師	小谷 英文 <令和2年4月> 博士(心理学)	精神療法
兼任	講師	近藤 麻理 <令和2年9月> 博士(看護学)	国際看護論
兼任	講師	高田 早苗 <令和2年9月> 博士(看護学)	看護倫理
兼任	講師	高橋 教朗 <令和2年4月> 医学士	精神科アセスメントと精神科診断 精神科薬物療法
兼任	講師	丸橋 裕 <令和2年4月> 博士(文学)	哲学的人間論
兼任	教授	久保 正二 <令和4年4月> 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学)	看護教育論
兼任	講師	山岡 由実 <令和2年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任、兼任の順に記入してください)。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・令和2年4月1日、乗越千枝専任教授就任。担当授業科目に「在宅看護学特論」「在宅看護学演習Ⅰ」「在宅看護学演習Ⅱ」「在宅看護学特別研究」を追加(令和2年2月AC教員審査済)
- ・オムニバス担当の見直しにより、仲谷和記兼担教授の担当授業科目「フィジカルアセスメント」を削除
- ・教育的効果を考慮し、三浦克之兼任講師の担当授業科目「臨床薬理学」を岩尾洋兼担教授へ変更
- ・松田常美専任講師が学位を取得したため、修士(医科学)から博士(医学)へ変更

【令和3年度】

- ・和田(吉川)恵美子専任教授の退職に伴い、オムニバス部分担当授業科目「理論看護学特論」を高橋(田代)照子専任教授へ変更(令和2年9月AC教員審査済)
- ・和田(吉川)恵美子専任教授の退職に伴い、オムニバス部分担当授業科目「理論看護学演習Ⅰ」を高橋(田代)照子専任教授へ変更(令和2年9月AC教員審査済)
- ・和田(吉川)恵美子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「理論看護学演習Ⅱ」「理論看護学特別研究」を削除
- ・小出恵子専任准教授の退職に伴い、担当授業科目「公衆衛生看護学特論」「公衆衛生看護学演習Ⅰ」「公衆衛生看護学演習Ⅱ」「公衆衛生看護学特別研究」を削除
- ・池内香織専任准教授が学位を取得したため、修士(看護学)から博士(人間健康科学)へ変更

【令和4年度】

- ・山本あい子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「災害看護学課題研究」「災害看護学特別研究」を亀井縁専任准教授へ変更(令和3年12月AC教員審査済)
- ・山本あい子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「災害看護対象論」「災害看護ケア論」「災害と制度」「災害看護援助論」「防災・減災看護演習」「要援護者看護援助論」「災害看護連携論」「災害看護学実習Ⅰ」「災害看護学実習Ⅱ」「災害看護学実習Ⅲ」「災害看護学実習Ⅳ」を削除
- ・池内香織専任准教授の退職に伴い、オムニバス部分担当授業科目「理論看護学特論」を高橋(田代)照子専任教授へ変更(令和3年12月AC教員審査済)
- ・池内香織専任准教授の退職に伴い、担当授業科目「理論看護学演習Ⅰ」「理論看護学演習Ⅱ」を削除
- ・教育的効果を考慮し、鶴田恵子兼任講師の担当授業科目「看護管理論」を岡谷恵子専任教授へ変更(令和3年12月AC教員審査済)
- ・岩尾洋兼担教授の退職に伴い、担当授業科目「臨床薬理学」を久保正二兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、平井秀幸兼担教授の担当授業科目「看護研究Ⅱ(統計)」を高木廣文兼任講師へ変更
- ・松田常美専任講師の退職に伴い、担当授業科目「成人看護学演習Ⅰ」「成人看護学演習Ⅱ」を削除

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A・C教員審査)を受けてください。**A・C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(A・C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
14	7	3	0	24	0	14	5	2	0	21	0
(14)	(7)	(3)	(0)	(24)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
16	2	7				15	1	5			
(16)	(2)	(7)				(15)	(1)	(5)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
14	5	2	0	21	0	14	5	5	0	24	0
[0]	[Δ2]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[Δ2]	[2]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
15	1	5				15	1	7			
[Δ1]	[Δ1]	[Δ2]				[Δ1]	[Δ1]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、既に設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	9	9
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{24} = \boxed{87.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{9}{21} = \boxed{42.85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	和田（吉川）恵美子	R2.6	選択	理論看護学特論	①	R2.6.30付け一身上の都合のため辞任（3）
				選択	理論看護学演習Ⅰ	①	
				選択	理論看護学演習Ⅱ	①	
				選択	理論看護学特別研究	①	
2	准教授	小出 恵子	R3.3	選択	公衆衛生看護学特論	①	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任（3）
				選択	公衆衛生看護学演習Ⅰ	①	
				選択	公衆衛生看護学演習Ⅱ	①	
				選択	公衆衛生看護学特別研究	①	
3	教授	山本 あい子	R4.3	選択	災害看護対象論	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任（4）
				選択	災害看護ケア論	①	
				選択	災害と制度	①	
				選択	災害看護援助論	①	
				選択	防災・減災看護演習	①	
				選択	要援護者看護援助論	①	
				選択	災害看護連携論	①	
				選択	災害看護学実習Ⅰ	①	
				選択	災害看護学実習Ⅱ	①	
				選択	災害看護学実習Ⅲ	①	
				選択	災害看護学実習Ⅳ	①	
				選択	災害看護学課題研究	①	
				選択	災害看護学特別研究	①	
4	准教授	池内 香織	R4.3	選択	理論看護学特論	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任（4）
				選択	理論看護学演習Ⅰ	①	
				選択	理論看護学演習Ⅱ	①	
5	講師	松田 常美	R4.3	選択	成人看護学演習Ⅰ	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任（4）
				選択	成人看護学演習Ⅱ	①	

合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)										
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)				
5	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	17	科目	選択	17	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)										
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)				
5	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	17	科目	選択	17	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \textcircled{3} \text{合計(D)+(F)}}{(2) - \textcircled{2} \text{設置時の計画(A)}} = \frac{5}{24} = \boxed{20.83} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>新たな教員を採用する、同領域の他の専任教員が担当できるようにAC教員審査を受審するなどを行うことで、特に問題はないと考える。また、学生へは履修要覧、時間割等で十分な周知を図っている。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	<p>入学者選抜ではアドミッション・ポリシーに掲げる「深い洞察力」、「自らの看護観の表現」についても確認を行い、専門科目は「看護師国家試験レベルの看護に関する総合問題」に留まらず、修士課程に入学する学生を確認するためにふさわしい専門科目を課すこと。</p>	<p>遵守事項</p> <p>1) 入学者選抜において、アドミッション・ポリシーに掲げる「深い洞察力」、「自らの看護観の表現」について確認するため、小論文と面接試験により以下のとおり実施した。 ①小論文：専攻する看護学分野の知識と深い洞察力、自らの考えを表現する能力など、看護学専攻博士前期課程において必要とされる基礎学力の程度を問う設問とした。 ②面接試験：目的意識の高さや自らの看護観を表現する能力、研究計画書等の論理構成力を評価した。 2) 専門科目について博士前期課程において必要な看護学の基礎的学力の程度を問うために、看護師国家試験レベルの看護に関する総合問題に留まらず、各領域から、看護全般に関する総合問題と状況設定問題を組み込んだ。 3) 2020年度入学者選抜試験は、2019年12月、2020年2月、3月の計3回実施した。(2)</p>	<p>履行済</p> <p>2021年度入試においても引き続き、アドミッション・ポリシーに掲げる「深い洞察力」、「自らの看護観の表現」について評価できるような設問を検討する。 また、小論においては、保健医療・看護学分野等の文献を読み、文脈や図を理解した読解力、自分自身の考えを表現する能力など、博士前期課程において必要とされる基礎学力の程度を問う問題作成を継続する。(2)</p>
	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>教員組織の年齢構成の適正化を図るために、若手教員の育成について検討を行った。(2) 完成年度以降の後任補充については、分野や年齢構成等について検討を行い、若手教員を採用するようの方針を決定した。(4)</p>	<p>履行済</p> <p>この在任期間内に、若手教員の育成ができるように科目担当を配慮し、准教授・講師の研究を促し研究実績の蓄積を進めるとともに、昇格に足る資質・能力の醸成を図る。 また、同時に退職者と同等の教育・研究水準の継続ができるように、退職と同時に若手・中堅教員を補充し、教員組織の年齢構成の適正化を図る。 特に必要な看護分野・領域については、65歳以上の定年後も特任教授として雇用し、教育・研究水準の維持に努める。(2) 左記の方針に基づき、令和4年度に専任教員を公募し採用する。(4)</p>
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、組織的な教育の改善に向け「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、FDの企画立案事項の審議・推進を図ることを目的として活動している。

また、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため「スタッフ・ディベロップメント委員会」を設置し、委員会を中心として大学職員の資質向上を図っている。

なお、大学全体としては、大学の現状や課題などを共通認識とすることや意識改革を図るため、教員と職員が同時に参加する研修会やワークショップ、人権研修会などを開催している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和3年度の開催：

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会（6回開催）

第1回：令和3年6月10日（出席者30名）

第2回：令和3年6月24日（出席者31名）

第3回：令和3年9月16日（出席者23名）

第4回：令和3年10月14日（出席者21名）

第5回：令和3年11月17日（出席者23名）

第6回：令和4年3月17日（出席者25名）

スタッフ・ディベロップメント委員会（1回開催）

第1回：令和3年11月24日（出席者8名）

c 委員会の審議事項等

【ファカルティ・ディベロップメント委員会】

- (1) 授業内容、方法および、評価に関する事項
- (2) 授業の改善に関する事項
- (3) その他、FDの目的達成のために必要な事項

【スタッフ・ディベロップメント委員会】

- (1) SDの企画立案に関する事項
- (2) SDの推進計画に関する事項
- (3) SDの実施に関する事項
- (4) その他SD推進に必要な事項

② 実施状況

a 実施内容

<全学>

- ・合同研修会
- ・SD研修会
- ・人権研修会
- ・ファシリテーション研修

b 実施方法

【合同研修会】

全教職員が一堂に会して年2回（各学期開始前）教職員能力開発と情報共有を図っている。

【SD研修会】

事務職員全員を対象とし、年1～2回の外部講師による研修を実施している。

【人権研修会】

全教職員を対象とし、年1～2回の人権研修を実施し、全学的に人権・同和教育等の推進をしている。

【ファシリテーション研修】

教育職員全員を対象で参加は申込制とし、開催した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【合同研修会】

令和3年度は、夏学期合同研修会として令和3年3月29日に開催し、動画視聴も含め専任教職員245名、冬学期合同研修会については令和3年9月3日開催し、動画視聴も含め専任教職員231名が参加した。

【SD研修会】

令和3年度は、令和4年2月24日に外部講師を招き、「SDGsと四天王寺大学のこれから」と題した研修を実施した。教職員126名が参加した。

【人権研修会】

令和3年度は、令和3年2月に動画視聴及び資料配布による「コロナ禍におけるネット上の差別の現状と問題解決に向けた教育的アプローチ」と題した人権研修を実施した。教職員193名が参加した。

【大学授業に活かすファシリテーション基礎研修】

令和3年度は令和4年3月8日に外部講師を招き、「大学授業に活かすファシリテーション基礎研修」と題し研修を行った。研修はグループワークを中心に行い、参加者は24名であった。また、参加者アンケートでは全員が「満足・やや満足」の回答結果であった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和3年度は、研修会で「授業におけるICT活用」や「情報教育の事例報告」等を共有し授業改善につなげていった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施していない

b 教員や学生への公開状況、方法等

該当なし

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学の教育理念は、聖徳太子の敬田院設立の精神（仏教精神）を基本とし、「すべての人が、他者および自身の善さを信じ、自らすすんで宗教的情操を涵養することで人格の陶冶を図りながら、広範にして深い知識と高い技術・技能を修得し、理想的な世界についての未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える修行を行う」ことである。その中で、看護学研究科は、看護の独自性・専門性を追求しつつ、多様化・複雑化している人々と社会の看護のニーズにこたえるために、研究遂行のための基礎的能力と高度実践能力を有する人材を育成する。

教員は計画通り全て着任し、建学の精神をはじめ、教育・研究の目的、3つのポリシー等の理解を深めており、定員も3名に対して入学者4名と確保している。

新型コロナウイルス感染拡大の防止に努めながら、講義（授業）をはじめとする教育研究活動はオンラインを中心としながらも一部対面で実施し、履修指導、学生支援体制には万全を期し取り組んでいる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和2年度 . . . 「自己点検・評価シート」を令和2年9月に公表

令和3年度 . . . 「自己点検評価書」を令和3年9月に公表

令和4年度 . . . 「自己点検評価書」を令和5年3月に公表予定

b 公表方法

令和2年度 . . . 「自己点検・評価シート」をホームページに令和2年9月掲載

令和3年度 . . . 「自己点検評価書」をホームページに令和3年9月掲載

令和4年度 . . . 「自己点検評価書」をホームページに令和5年3月掲載予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和4年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価受審が決定
（現在の認証期間は、平成27年4月1日～令和5年3月31日）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 四天王寺学園

(2) 大学名

四天王寺大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒583-8501
大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タキトウ ソンジュン) 瀧藤 尊淳 (平成25年4月)	(ミナミタニ エケイ) 南谷 恵敬 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
学長	(イワオ ヒロシ) 岩尾 洋 (平成28年4月)	(スハラ ショウジ) 須原 祥二 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
研究科長	(ヤマモト アイコ) 山本 あい子 (令和2年4月)	(タカハシ テルコ) 高橋 照子 (令和3年4月)	任期満了による変更 令和3年4月1日(3)
専攻長	(ニシダ マスミ) 西田 眞壽美 (令和2年4月)	(ウサミ シオリ) 後任なし 宇佐美 しおり (令和4年4月)	令和4年4月1日(4) 任期満了 後任発令なし 令和3年4月1日(3)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履状状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 （博士後期課程） 博士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	3 年	3 人	— 人	9 人	新規入学者を 募集中	基礎となる学部等： 看護学部看護学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	/		/		3人 —人		3人 —人		3人 —人				0.88倍	— 倍			
志願者数					(—)		(—)		(—)		(—)						
受験者数					5 —		4 —		3 —		3 —						
合格者数					3 —		4 —		3 —		2 —						
B 入学者数					3 —		3 —		2 —		—						
入学定員超過率 B/A			1.00		1.00		0.66										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次					3 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	令和3年度2年次には転入学1名を含む(3)
2年次							4 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	
3年次									4 [-] (-)	— [-] (-)	
4年次											
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	3 [-] (-)	— [-] (-)	7 [-] (-)	— [-] (-)	9 [-] (-)	— [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	3 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	7 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	9 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	看護科学哲学	1前	2			1						1	
	看護学研究方法論	1前	2			2							
	高等社会統計学	1後		2								1	
	看護教育学	1後		2								1	
	小計(4科目)	—	4	4	0	2	0	0	0	0	0	3	
専門科目	基盤看護学分野	理論看護学特論	1通		2		2						
		理論看護学演習	2通		2		2						
		精神看護学特論	1通		2		1						
		精神看護学演習	2通		2		1						
	生涯発達看護学分野	母子看護学特論	1通		2		2						
		母子看護学演習	2通		2		2	1					
		成人看護学特論	1通		2		2						
		成人看護学演習	2通		2		3						
		老年看護学特論	1通		2		1						
		老年看護学演習	2通		2		1						
	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論	1通		2		2	1					
		公衆衛生看護学演習	2通		2		2	1					
		在宅看護学特論	1通		2		3						
		在宅看護学演習	2通		2		2						
		災害看護学特論	1通		2		1	1					
		災害看護学演習	2通		2		1	1					
	小計(16科目)	—	0	32	0	15	3	0	0	0	0		
特別研究	看護学特別研究	1~3通	8			12	1						
	小計(1科目)	—	8	0	0	12	1	0	0	0	0		
合計(21科目)			—	12	36	0	15	3	0	0	0	3	
卒業要件及び履修方法													
<p>共通科目6単位以上、専門科目の専攻する分野から4単位以上、特別研究8単位の合計18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。</p>													

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	看護科学哲学	1前	2			1						1	
	看護学研究方法論	1前	2			2							
	高等社会統計学	1後		2								1	
	看護教育学	1後		2								1	
	小計(4科目)	—	4	4	0	2	0	0	0	0	0	3	
専門科目	基盤看護学分野	理論看護学特論	1通		2		2						
		理論看護学演習	2通		2		2						
		精神看護学特論	1通		2		1						
		精神看護学演習	2通		2		1						
	生涯発達看護学分野	母子看護学特論	1通		2		2						
		母子看護学演習	2通		2		2	1					
		成人看護学特論	1通		2		2	1					
		成人看護学演習	2通		2		3	1					
		老年看護学特論	1通		2		1						
		老年看護学演習	2通		2		1						
	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論	1通		2		2						
		公衆衛生看護学演習	2通		2		2						
		在宅看護学特論	1通		2		3						
		在宅看護学演習	2通		2		2						
		災害看護学特論	1通		2		1	1					
		災害看護学演習	2通		2		1	1					
	小計(16科目)	—	0	32	0	13	3	1	0	0	0		
特別研究	看護学特別研究	1~3通	8			13	1						
	小計(1科目)	—	8	0	0	13	1	0	0	0	0		
合計(21科目)			—	12	36	0	13	3	1	0	0	3	
卒業要件及び履修方法													
<p>共通科目6単位以上、専門科目の専攻する分野から4単位以上、特別研究8単位の合計18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。</p>													

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	看護科学哲学	1前	2			1					1	
	看護学研究方法論	1前	2			2						
	高等社会統計学	1後		2							1	
	看護教育学(未開講)	1後		2							1	
	小計(4科目)	—	4	4	0	2	0	0	0	0	3	
専門科目	基礎看護学分野	理論看護学特論	1通		2		2					
		理論看護学演習	2通		2		2					
		精神看護学特論	1通		2		1					
		精神看護学演習	2通		2		1					
	生涯発達看護学分野	母子看護学特論(未開講)	1通		2		2					
		母子看護学演習	2通		2		2	1				
		成人看護学特論(未開講)	1通		2		2					
		成人看護学演習	2通		2		3					
		老年看護学特論(未開講)	1通		2		1					
		老年看護学演習	2通		2		1					
	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論(未開講)	1通		2		2	1				
		公衆衛生看護学演習	2通		2		2	1				
		在宅看護学特論(未開講)	1通		2		3					
		在宅看護学演習	2通		2		2					
		災害看護学特論(未開講)	1通		2		1	1				
		災害看護学演習	2通		2		1	1				
	小計(16科目)	—	0	32	0	15	3	0	0	0		
特別研究	看護学特別研究	1~3通	8			12	1					
	小計(1科目)	—	8	0	0	12	1	0	0	0		
合計(21科目)			—	12	36	0	15	3	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法												
共通科目6単位以上、専門科目の専攻する分野から4単位以上、特別研究8単位の合計18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	看護科学哲学	1前	2			1					1	
	看護学研究方法論	1前	2			2						
	高等社会統計学	1後		2							1	
	看護教育学(未開講)	1後		2							1	
	小計(4科目)	—	4	4	0	2	0	0	0	0	3	
専門科目	基礎看護学分野	理論看護学特論(未開講)	1通		2		1					
		理論看護学演習	2通		2		1					
		精神看護学特論	1通		2		1					
		精神看護学演習	2通		2		1					
	生涯発達看護学分野	母子看護学特論(未開講)	1通		2		2					
		母子看護学演習	2通		2		2	1				
		成人看護学特論(未開講)	1通		2		2					
		成人看護学演習	2通		2		3					
		老年看護学特論(未開講)	1通		2		1					
		老年看護学演習	2通		2		1					
	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論(未開講)	1通		2		2					
		公衆衛生看護学演習	2通		2		2					
		在宅看護学特論(未開講)	1通		2		3					
		在宅看護学演習	2通		2		2					
		災害看護学特論	1通		2		1	1				
		災害看護学演習(未開講)	2通		2		1	1				
	小計(16科目)	—	0	32	0	14	2	0	0	0		
特別研究	看護学特別研究	1~3通	8			12						
	小計(1科目)	—	8	0	0	12	0	0	0	0		
合計(21科目)			—	12	36	0	14	2	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法												
共通科目6単位以上、専門科目の専攻する分野から4単位以上、特別研究8単位の合計18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

- ・ 担当者退職のため、「理論看護学特論」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・ 担当者退職のため、「理論看護学演習」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・ 担当者退職のため、「公衆衛生看護学特論」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・ 担当者退職のため、「公衆衛生看護学演習」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・ 担当者退職のため、「看護学特別研究」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更

【令和4年度】

- ・ 教育内容の充実のため、「母子看護学特論」の専任教員数を「教授2」から「教授2、講師1」に変更
- ・ 教育内容の充実のため、「母子看護学演習」の専任教員数を「教授2、准教授1」から「教授2、准教授1、講師1」に変更
- ・ 教育内容の充実のため、「成人看護学特論」の専任教員数を「教授2」から「教授2、准教授1」に変更
- ・ 教育内容の充実のため、「成人看護学演習」の専任教員数を「教授3」から「教授3、准教授1」に変更
- ・ 担当者退職及び教育内容の充実のため、「看護学特別研究」の専任教員数を「教授12」から「教授13、准教授1」に変更
- ・ 担当者退職のため、「災害看護学特論」「災害看護学演習」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	18 科目	0 科目	21 科目	3 科目 []	18 科目 []	0 科目 []	21 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{21} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1)	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	0 m ²	105,874.22 m ² 100,141.08 m ²	0 m ²	0 m ²		105,874.22 m ² 100,141.08 m ²	四天王寺大学短期大学部 （必要面積4,800m ² ）と共用 元年度、移管された校地の 改修工事が2年7月に完 成。これに伴い、土地の用 途を変更（3）	
運動場用地	0 m ²	67,012.64 m ² 30,611.60 m ²	0 m ²	0 m ²	67,012.64 m ² 30,611.60 m ²				
小計	0 m ²	172,886.86 m ² 130,752.68 m ²	0 m ²	0 m ²	172,886.86 m ² 130,752.68 m ²				
その他	0 m ²	59,355.14 m ² 101,489.32 m ² 57,824.32 m ²	0 m ²	0 m ²	59,355.14 m ² 101,489.32 m ² 57,824.32 m ²				
合計	0 m ²	232,242.00 m ² 188,577.00 m ²	0 m ²	0 m ²	232,242.00 m ² 188,577.00 m ²				
(2) 校舎		4,206.37 m ²	59,161.45 m ² 59,150.48 m ² 59,063.05 m ² 59,055.55 m ²	938.44 m ² 949.41 m ² 1,036.84 m ² 1,044.34 m ²	64,306.26 m ²	四天王寺大学短期大学部 （必要面積5,200m ² ）と共用 【共用】および【共用する 他の学校等の専用】 併設短期大学部専用研究室 の増による変更（2） 【共用】および【共用する 他の学校等の専用】 併設短期大学部専用研究室 の減による変更（3） 【共用】および【共用する 他の学校等の専用】 併設短期大学部専用研究室 の減による変更（4）			
(3) 教室等		講義室 68室	演習室 69室 64室	実験実習室 31室	情報処理学習施設 1室	語学学習施設 0室	大学全体 教室使用の用途変更のため (3)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 看護学研究科 看護学専攻		室数 25 24 室		専任教員1名採用による 変更（2）			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共有分 図書 342,870冊 335-063冊 325-341冊 299-801冊 [40,537冊] -[41,341冊] -[41,243冊] -[39,556冊] 学術雑誌 4,707種 4,647種 4,615種 4,324種 [430種] [431種] -[427種] -[384種] 購入による変更（2） 購入による変更（3） 購入、休刊等による変更 (4)	
	看護学研究科 看護学専攻	4,841 [328] -(4,480 [328]) -(4,326 [326]) -(3,843 [300])	617 [597] -(625 [603]) -(464 [425])	605 [586] -(611 [592]) -(426 [409])	(203) -(192) -(178) -(158)	(3,840)	(33)		
	計	4,841 [328] -(4,480 [328]) -(4,326 [326]) -(3,843 [300])	617 [597] -(625 [603]) -(464 [425])	605 [586] -(611 [592]) -(426 [409])	(203) -(192) -(178) -(158)	(3,840)	(33)		
(6) 図書館		面積 4,246.44 m ²	閲覧座席数 520 579	収納可能冊数 371,699 294,000	大学全体 閲覧スペースのレイアウト 変更の為（3）				
(7) 体育館		面積 11,008.20 m ² 7,530.06 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート 7 -4- 面、武道場		大学全体 学園内の高等学校廃止に より、既存施設の移管に よる変更（2）				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	【設備購入費】 計画時の購入予定仕器から 変更となったため (2) 【共同研究費】 研究支援のために増額 (4)	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	370千円	370千円	図書購入費	3,500千円	2,000千円		—千円
	共同研究費等	2,000千円	3,000千円 2,000千円	設備購入費	3,960千円 7,810千円	900千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要	各年度の手数料収入、雑収入等をこれに充当する。								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	四天王寺大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
人文社会学部	年	人	年次人 3年次	人		倍	倍	年度	年度	大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1
日本学科	4	100	3	406	学士(人文社会学)	1.04	0.99		平成24	
国際キャリア学科	4	90	5	370	学士(人文社会学)	0.97	0.61		平成24	
社会学科	4	160	5	650	学士(人文社会学)	1.12	1.13		昭和61	
人間福祉学科	4	70	15	310	学士(人文社会学)	1.06	0.98		平成18	
教育学部			3年次							
教育学科	4	240	17	994	学士(教育学)	1.10	1.14		平成20	
経営学部			3年次							
経営学科									平成20	
公共経営専攻	4	40	2	164	学士(経営学)	0.97	1.02		平成28	
企業経営専攻	4	120	3	486	学士(経営学)	1.13	1.05		平成28	
看護学部										
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.07	1.13		平成31	
大学全体	—	900	50	3700	—	—	—	—	—	

大学 の 名 称	四天王寺大学大学院					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
人文社会学研究科 人間福祉学専攻										大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1
博士前期課程	2	10	—	20	修士(人間福祉学)	0.00	0.00		平成15	
博士後期課程	3	3	—	9	博士(人間福祉学)	0.66	0.00		平成15	
看護学研究科 看護学専攻										
博士前期課程	2	6	—	12	修士(看護学)	1.08	0.83		令和2	
博士後期課程	3	3	—	9	博士(看護学)	0.88	0.66		令和2	
大学院全体	—	22	—	50	—	—	—	—	—	

大学 の 名 称	四天王寺大学短期大学部					学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
保育科	2	120	—	240	短期大学士(保育)	0.66	0.65		昭和42	大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1
ライフデザイン学科	2	100	—	200	短期大学士(ライフデザイン)	0.88	0.82			
ライフケア専攻	2	0	—	20	短期大学士(ライフケア)	0.80	—		平成13	
短期大学部全体	—	220	—	460	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	山本 あい子 <令和2年4月> 博士(看護学)	災害看護学特論 災害看護学演習 看護学特別研究
専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究
専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習 看護学特別研究
専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 看護学特別研究
専	教授	鈴木 眞知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授	高橋(田代)照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米国)	看護科学哲学 看護学研究方法論 理論看護学特論 理論看護学演習 看護学特別研究
専	教授	西田 眞壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	老年看護学特論 老年看護学演習 看護学特別研究
専	教授	乗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習
専	教授	福田 和明 <令和2年4月> 博士(看護学)	成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	山本 あい子 <令和2年4月> 博士(看護学)	災害看護学特論 災害看護学演習 看護学特別研究
専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究
専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習 看護学特別研究
専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 看護学特別研究
専	教授	鈴木 眞知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授	高橋(田代)照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米国)	看護科学哲学 看護学研究方法論 理論看護学特論 理論看護学演習 看護学特別研究
専	教授	西田 眞壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	老年看護学特論 老年看護学演習 看護学特別研究
専	教授	乗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習
専	教授	福田 和明 <令和2年4月> 博士(看護学)	成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	山本 あい子 <令和2年4月> 博士(看護学)	災害看護学特論 災害看護学演習 看護学特別研究
専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究
専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習 看護学特別研究
専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 看護学特別研究
専	教授	鈴木 眞知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授 (研究科長)	高橋(田代)照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米国)	看護科学哲学 看護学研究方法論 理論看護学特論 理論看護学演習 看護学特別研究
専	教授	西田 眞壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	老年看護学特論 老年看護学演習 看護学特別研究
専	教授	乗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習
専	教授	福田 和明 <令和2年4月> 博士(看護学)	成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	赤井 由紀子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授	宇佐美 しおり <令和2年4月> 博士(看護学)	精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究
専	教授	大橋 純子 <令和2年4月> 博士(人間健康科学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習 看護学特別研究
専	教授	岡本 啓子 <令和2年4月> 博士(保健看護学)	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	教授	小林 裕美 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 看護学特別研究
専	教授	鈴木 眞知子 <令和2年4月> 博士(看護学)	母子看護学特論 母子看護学演習 看護学特別研究
専	教授 (研究科長)	高橋(田代)照子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米国)	看護科学哲学 看護学研究方法論 理論看護学特論 理論看護学演習 看護学特別研究
専	教授	西田 眞壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	老年看護学特論 老年看護学演習 看護学特別研究
専	教授	乗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)	在宅看護学特論 在宅看護学演習 看護学特別研究
専	教授	福田 和明 <令和2年4月> 博士(看護学)	成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学) 成人看護学演習
専	教授	松尾 ミヨ子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy(米国) 看護学研究方法論 成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究
専	教授	山田 和子 <令和2年4月> 博士(医学) 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <令和2年4月> 博士(看護学) 理論看護学特論 理論看護学演習
専	准教授	亀井 縁 <令和2年4月> 博士(看護学) 災害看護学特論 災害看護学演習
専	准教授	小出 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学) 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学) 母子看護学演習
兼任	講師	高木 廣文 <令和2年9月> 健康学博士 高等社会統計学
兼任	講師	松葉 祥一 <令和2年4月> 修士(文学) 看護科学哲学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学) 成人看護学演習
専	教授	松尾 ミヨ子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy(米国) 看護学研究方法論 成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究
専	教授	山田 和子 <令和2年4月> 博士(医学) 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <令和2年4月> 博士(看護学) 理論看護学特論 理論看護学演習
専	准教授	亀井 縁 <令和2年4月> 博士(看護学) 災害看護学特論 災害看護学演習
専	准教授	小出 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学) 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学) 母子看護学演習
兼任	講師	高木 廣文 <令和2年9月> 健康学博士 高等社会統計学
兼任	講師	松葉 祥一 <令和2年4月> 修士(文学) 看護科学哲学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学) 成人看護学演習
専	教授	松尾 ミヨ子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy(米国) 看護学研究方法論 成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究
専	教授	山田 和子 <令和2年4月> 博士(医学) 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	准教授	亀井 縁 <令和2年4月> 博士(看護学) 災害看護学特論 災害看護学演習
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学) 母子看護学演習
兼任	講師	高木 廣文 <令和2年9月> 健康学博士 高等社会統計学
兼任	講師	松葉 祥一 <令和2年4月> 修士(文学) 看護科学哲学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学) 成人看護学演習 看護学特別研究
専	教授	松尾 ミヨ子 <令和2年4月> Doctor of Philosophy(米国) 看護学研究方法論 成人看護学特論 成人看護学演習 看護学特別研究
専	教授	山田 和子 <令和2年4月> 博士(医学) 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 看護学特別研究
専	准教授	亀井 縁 <令和2年4月> 博士(看護学) 災害看護学特論 災害看護学演習 看護学特別研究
専	准教授	宮本 雅子 <令和2年4月> 博士(看護学) 母子看護学演習
専	准教授	吉川 有美 <令和4年4月> 博士(人間健康科学) 成人看護学特論 成人看護学演習
専	講師	面元 康世 <令和4年4月> 博士(保健学) 母子看護学特論 母子看護学演習
兼任	講師	高木 廣文 <令和2年9月> 健康学博士 高等社会統計学
兼任	講師	松葉 祥一 <令和2年4月> 修士(文学) 看護科学哲学
兼任	講師	安酸 史子 <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順)に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

- ・和田（吉川）恵美子専任教授の退職に伴い、オムニバス部分担当授業科目「理論看護学特論」を高橋（田代）照子専任教授へ変更（令和2年9月AC教員審査済）
- ・和田（吉川）恵美子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「理論看護学演習」を削除
- ・小出恵子専任准教授の退職に伴い、担当授業科目「公衆衛生看護学特論」「公衆衛生看護学演習」「看護学特別研究」を削除

【令和4年度】

- ・教育内容充実のため、「母子看護学特論」「母子看護学演習」の担当教員に西元康世専任講師を追加（令和3年12月AC教員審査済）
- ・教育内容充実のため、「成人看護学特論」「成人看護学演習」の担当教員に吉川有葵専任准教授を追加（令和3年12月AC教員審査済）
- ・山本あい子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「災害看護学特論」「災害看護学演習」を削除
- ・山本あい子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「看護学特別研究」を亀井緑専任准教授へ変更（令和3年12月AC教員審査済）
- ・教育内容充実のため、「看護学特別研究」の担当教員に藤原尚子専任教授、乗越千枝専任教授を追加（令和3年12月AC教員審査済）

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
15	3	0	0	18	0	13	3	1	0	17	0
(15)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
11	2	5				10	4	3			
(11)	(2)	(5)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
13	3	1	0	17	0	13	3	1	0	17	0
[Δ2]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[Δ2]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
10	4	3				10	4	3			
[Δ1]	[2]	[Δ2]				[Δ1]	[2]	[Δ2]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
65	7	7
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{18} = \boxed{94.44} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{7}{17} = \boxed{41.17} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	和田（吉川）恵美子	R2.6	選択	理論看護学特論	①	R2.6.30付け一身上の都合のため辞任（3）			
				選択	理論看護学演習	①				
2	准教授	小出 恵子	R3.3	選択	公衆衛生看護学特論	①	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任（3）			
				選択	公衆衛生看護学演習	①				
				必修	看護学特別研究	①				
3	教授	山本 あい子	R4.3	選択	災害看護学特論	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任（4）			
				選択	災害看護学演習	①				
				必修	看護学特別研究	①				
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	6	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
3 人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	6 科目	選択	6 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	8 科目	計	8 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{3}{18} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

新たな教員を採用する、同領域の他の専任教員が担当できるようにAC教員審査を受審するなどを行うことで、特に問題はないと考える。また、学生へは履修要覧、時間割等で十分な周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画	
認 可 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項	<p>教員組織の年齢構成の適正化を図るために、若手教員の育成について検討を行った。(2)</p> <p>完成年度以降の後任補充については、分野や年齢構成等について検討を行い、若手教員を採用するように方針を決定した。(4)</p>	<p>この在任期間内に、若手教員の育成ができるように科目担当を配慮し、准教授・講師の研究を促し研究実績の蓄積を進めるとともに、昇格に足る資質・能力の醸成を図る。</p> <p>また、同時に退職者と同等の教育・研究水準の継続ができるように、退職と同時に若手・中堅教員を補充し、教員組織の年齢構成の適正化を図る。</p> <p>特に必要な看護分野・領域については、65歳以上の定年後も特任教授として雇用し、教育・研究水準の維持に努める。(2)</p> <p>左記の方針に基づき、令和4年度に専任教員を公募し採用する。(4)</p>
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するように務めること。	改善事項	<p>令和2年度に専任教員2名（基礎看護学分野の科目担当教員1名及び広域看護学分野の研究指導教員1名）が退職したことに伴い、当初計画の専任教員数18名から16名に減少したため、改善を図るべく令和3年12月に2名の教員についてAC教員審査を受審し、補充した。(4)</p>	<p>令和3年度末に専任教員1名（広域看護学分野の研究指導教員）が退職したため、当初計画の専任教員数18名から17名に減少した。このことについて改善を図るため、令和4年度に専任教員を公募し採用する。(4)</p>
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	定年規定に定める定年年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想を策定し 着実に実行すること。	改善事項	<p>完成年度以降の後任補充については、分野や年齢構成等について検討を行い、若手教員を採用するように方針を決定した。(4)</p>	<p>左記の方針に基づき、令和4年度に専任教員を公募し採用する。(4)</p>

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、組織的な教育の改善に向け「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、FDの企画立案事項の審議・推進を図ることを目的として活動している。

また、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため「スタッフ・ディベロップメント委員会」を設置し、委員会を中心として大学職員の資質向上を図っている。

なお、大学全体としては、大学の現状や課題などを共通認識とすることや意識改革を図るため、教員と職員が同時に参加する研修会やワークショップ、人権研修会などを開催している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和3年度の開催：

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会（6回開催）

第1回：令和3年6月10日（出席者30名）

第2回：令和3年6月24日（出席者31名）

第3回：令和3年9月16日（出席者23名）

第4回：令和3年10月14日（出席者21名）

第5回：令和3年11月17日（出席者23名）

第6回：令和4年3月17日（出席者25名）

スタッフ・ディベロップメント委員会（1回開催）

第1回：令和3年11月24日（出席者8名）

c 委員会の審議事項等

【ファカルティ・ディベロップメント委員会】

(1) 授業内容、方法および、評価に関する事項

(2) 授業の改善に関する事項

(3) その他、FDの目的達成のために必要な事項

【スタッフ・ディベロップメント委員会】

(1) SDの企画立案に関する事項

(2) SDの推進計画に関する事項

(3) SDの実施に関する事項

(4) その他SD推進に必要な事項

② 実施状況

a 実施内容

<全学>

・合同研修会

・SD研修会

・人権研修会

・SD研修（事務局全体研修会）

・ファシリテーション研修

b 実施方法

【合同研修会】

全教職員が一堂に会して年2回（各学期開始前）教職員能力開発と情報共有を図っている。

【SD研修会】

事務職員全員を対象とし、年1～2回の外部講師による研修を実施している。

【人権研修会】

全教職員を対象とし、年1～2回の人権研修を実施し、全学的に人権・同和教育等の推進をしている。

【ファシリテーション研修】

教育職員全員を対象で参加は申込制とし、開催した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【合同研修会】

令和3年度は、夏学期合同研修会として令和3年3月29日に開催し、動画視聴も含め専任教職員245名、冬学期合同研修会については令和3年9月3日開催し、動画視聴も含め専任教職員231名が参加した。

【SD研修会】

令和3年度は、令和4年2月24日に外部講師を招き、「SDGsと四天王寺大学のこれから」と題した研修を実施した。教職員126名が参加した。

【人権研修会】

令和3年度は、令和3年2月に動画視聴及び資料配布による「コロナ禍におけるネット上の差別の現状と問題解決に向けた教育的アプローチ」と題した人権研修を実施した。教職員193名が参加した。

【大学授業に活かすファシリテーション基礎研修】

令和3年度は令和4年3月8日に外部講師を招き、「大学授業に活かすファシリテーション基礎研修」と題し研修を行った。研修はグループワークを中心に行い、参加者は24名であった。また、参加者アンケートでは全員が「満足・やや満足」の回答結果であった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和3年度は、研修会で「授業におけるICT活用」や「情報教育の事例報告」等を共有し授業改善につなげていった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施していない

b 教員や学生への公開状況、方法等

該当なし

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学の教育理念は、聖徳太子の敬田院設立の精神（仏教精神）を基本とし、「すべての人が、他者および自身の善さを信じ、自らすすんで宗教的情操を涵養することで人格の陶冶を図りながら、広範にして深い知識と高い技術・技能を修得し、理想的な世界についての未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える修行を行う」ことである。その中で、看護学研究科は、看護の独自性・専門性を追求しつつ、多様化・複雑化している人々と社会の看護のニーズにこたえるために、研究遂行のための基礎的能力と高度実践能力を有する人材を育成する。

教員は計画通り全て着任し、建学の精神をはじめ、教育・研究の目的、3つのポリシー等の理解を深めており、定員も3名に対して入学者4名と確保している。

新型コロナウイルス感染拡大の防止に努めながら、講義（授業）をはじめとする教育研究活動はオンラインを中心としながらも一部対面で実施し、履修指導、学生支援体制には万全を期し取り組んでいる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和2年度 . . . 「自己点検・評価シート」を令和2年9月に公表

令和3年度 . . . 「自己点検評価書」を令和3年9月に公表

令和4年度 . . . 「自己点検評価書」を令和5年3月に公表予定

b 公表方法

令和2年度 . . . 「自己点検・評価シート」をホームページに令和2年9月掲載

令和3年度 . . . 「自己点検評価書」をホームページに令和3年9月掲載

令和4年度 . . . 「自己点検評価書」をホームページに令和5年3月掲載予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和4年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価受審が決定
（現在の認証期間は、平成27年4月1日～令和5年3月31日）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。